

# 竹取新聞

株式会社 カグヤ  
東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビルディング  
2号館10階



第118版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家絵本家 聴福庵



今後は全5巻ある『21世紀型保育のススメ』を読み進めていきます。

## 臥竜塾年間講座2019 ～21世紀型保育のススメ～

そして連載が始まり半年後、大きな反響があり、更に半年間連載が続き、その1年分の記事を本文として、そこにQ&Aも書き加え『21世紀型保育のススメ』が生まれたそうです。

講義後は、10名ずつの4グループに分かれ、グループディスカッションを行いました。グループは1年間固定ということで、自己紹介後、グループ名を決め、グループごとに話し合いが始まりました。テーブルには、「ポストイット イーゼルパッド」と呼ばれる、模造紙のように大きな紙で作られた、巨大な付箋に意見を書いていきました。

今回は「保育者にとつての刷り込み」をテーマに話し合いました。保育士と言えば、エプロンをしている。ピアノを弾けなきゃいけない。男の先生は力持ち。保育士は子育てが楽と言われる。など、他にも多くの保育士や保育園の

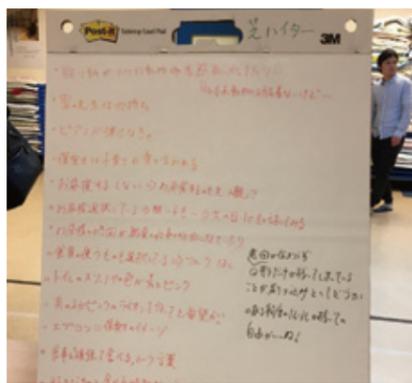
今年で5年目を迎えた「臥竜塾年間講座」。東京都にある、新宿せいが子ども園の先生方が講師となり行う通年の講座です。  
今年度は、藤森平司先生著の『21世紀型保育のススメ』をテキストに1年間学んでいくことになっており、全国から40名ほどの先生方が参加されています。

トを参考に今の具体的な保育の取り組みを見て、またディスカッションを通して学んでいく講座です。  
初回の今回は『21世紀型保育のススメ』の本著が生まれた経緯から講座が始まりました。本書が生まれたのは「見守る保育」という言葉がまだなかった当時のこと。異年齢保育やゾーンを作る際に、他園の事例になればと世界文化社に話をもち掛け、最初は絵本の付録に付くような冊子として連載がスタートしたそうです。



『21世紀型保育のススメ』  
出版：世界文化社

今回「保育者にとつての刷り込み」をテーマに話し合いました。保育士と言えば、エプロンをしている。ピアノを弾けなきゃいけない。男の先生は力持ち。保育士は子育てが楽と言われる。など、他にも多くの保育士や保育園のイメージなどが挙がりました。グループでの話し合いの後、各グループ2人の発表者を決め、隣のグループに移動をし、グループで話し合った内容を5分間で発表し合いました。そしてまた、次のグループに移動をし発表を繰り返します。発表者が繰り返して発表を行うことで、考え方が定着していく効果を狙って考えられたそうです。年に一度はグループメンバー全員が発表する機会が設けられ、発表を聞いている先生方は、自分のグループの以外の気づきを得られる仕組みになっています。



ポストイット・イーゼルパッド



【1年目】普段の生活とはちょっと違う空間・雰囲気を楽しんでいます。



【2年目】グループによって作り方は様々で個性的。中で給食も食べるように！



【3年目】みんなで作り上げる楽しさが、写真の雰囲気からも感じられます。

鹿児島県の竹之迫保育園様が発信するブログに「秘密基地作り」の取り組みが書かれていました。年長児がいくつかのチームに分かれて段ボールと格闘している姿からは、お友達と意見を出し合い、協力して一つの物を作り上げる貴重な体験になっていることが伝わってきます。

この秘密基地作りは、子どもたちにとつても、見守っている先生方にとつても思い出に残る卒園制作のようであり、子どもたちの興味や意欲から園の文化が生まれていることが素敵だと感じました。

## 秘密基地作り 3年目

鹿児島県の竹之迫保育園様が発信するブログに「秘密基地作り」の取り組みが書かれていました。年長児がいくつかのチームに分かれて段ボールと格闘している姿からは、お友達と意見を出し合い、協力して一つの物を作り上げる貴重な体験になっていることが伝わってきます。

この秘密基地作りは、子どもたちにとつても、見守っている先生方にとつても思い出に残る卒園制作のようであり、子どもたちの興味や意欲から園の文化が生まれていることが素敵だと感じました。

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 子連れ出勤



子どもにとっては職業体験の場になっているかも？

最近、子連れ出勤についての賛否をよく耳にしますが、カグヤも流れに乗って子連れ出勤に挑戦してみました！カグヤの理念は『子ども第一義』。『色々な働き方を試せるチャンスだね、面白そう！』というクルーからの後押しもあり実現したのです。「職場に子どもがいると仕事に集中できないのではないか」そんな声をよく聞きますし、実際心配な面でもありました。ですが、今回は仕事のお手伝いをお願いしてみると、手順

を説明しなくてもお客様への手土産をラッピングしてくれ、理由を聞くと「パパが出張に行く時持っていくのをいつも見てるから」とのこと。慣れた手つきにも納得です。仕事に集中できないどころか皆と一緒に違和感なく座っている姿に安心感を覚えるほどでした。

「子連れ」というとどうしても大人目線で捉えられがちですが、子どもも社会の一員。子どもの視点から見た会社はどのようなものを教えてもらう良い機会でもあると感じます。働き方や子育てに「こうあるべき」という正解はないからこそ、これからも様々な方法を試していける環境を大切にしていきたいと思っています。



季節に合ったテープを選んだそう。世の中には様々なお仕事があります。



仕事が終わって帰る時は「お疲れさまでした！」の挨拶を忘れずに♪

## 社内木鶏

毎月一度カグヤでは社内木鶏を行っています。こちらの実践がはじまり10年程。いつもはクルーのみで行っているのですが、今回は保育園に勤めている先生と、カグヤにインターンで来ている学生さんも加わり行いました。社内木鶏では、事前に選定した記事に対しての感想や、自分自身の一カ月の働きを振り返って、今後どうしていきたいか等を発表し合う学びの場です。



毎月、各界を代表する人が致知出版社からインタビューを受けた記事が掲載されている人間学の月刊誌。

仲間の気づきからも学びを得ることが出来ることです。今回は新たに二人が加わったことで、それぞれの立場からの気づきを聞くことができ、今まで以上にたくさん学びを共有することができました。ここからの10年も常に学ばせていただく姿勢を忘れず、新鮮な気持ちで実践に取り組んでいきたいと思えます。

## 一期一会庵

### 美徳の教育

先日、自宅の愛用の急須が割れてしまいいちようどいい機会にと日本の伝統文化の一つ「金継ぎ」（きんつぎ）をして修繕しています。

この金継ぎとは、別名「金繕い」ともいわれる古くは千年以上の歴史があるといわれます。具体的には、割れや欠け、ヒビなどの陶磁器の破損部分を漆によって接着し、金などの金属粉で装飾して仕上げる修復技法のことです。現在でもよく「金継ぎ」教室などといって陶磁器の修繕を教える場所があったり、アートとしてそれを展示するようなことも増えているともいいます。

通常であれば、割ればすぐに捨てるのでしょろが長い年月共にしてきた「もの」はもったいなくて捨てることはなかなかできません。修繕の技術があるのであれば、捨てなくてもよかったですものがたくさんあります。むかしの道具は自然物を用い、できる限り自然物を活かした形で作られたものですから修繕ができないものはほとんどありません。

この金継ぎは、やってみるとすぐ

にわかるのですが修繕するまでにだいぶ時間がかかります。現在は瞬間接着ボンドであつという間に乾きますから、数週間もかけてじっくりと待つことが苦手な人には向いていないかもしれません。簡単便利にすぐに修繕できるものは、余計にそのものが割れてもまた接着ボンドで思いますが、これだけ時間をかけて手間暇がかかるものなら割れないようにしようという心があるものですね。これは物だけではなく人間関係を含め、何と接着するとしても時間をかけて手間暇がかかっているからこそ大切にしたいと願うものです。

むかしの人たちの修繕の心得は、今の時代の生き方を磨くためにも活かせるものが多いように思います。いくつもの工程を経て修繕される陶磁器のひび割れは、修繕後の金継ぎされた部分を「景色」と呼びます。割れた場所を取って転じて「金」にするという思想、その継がれた絆を「景色」と呼ぶ感性はまさに日本人の「美徳」の象徴の一つだと感じます。

大量生産大量消費、利己優先のこの時代においてこの美徳の教育から学ぶことが多くあるように思います。子どもたちに私たちの生き方で、美徳の教育も伝承していきたいと思っています。

## 編集後記



新たな時代を作っていく豊かさを大いに味わいましょう！

「昭和」から「平成」、そして「令和」へ。「平成」の時代だけでも社会は大きく変化していることを感じますし、技術革新のスピードはさらに上がってきていることを思うと、新しいこの時代もまた、大きく社会が変革していくことが予想されます。子どもたちの未来に何を残して行くのかを思うと、変えていくべきことと変えてはいけ

ないものを見極めるバランスが必要なのだと思いますが、お客様のところでは「これを良いきっかけとして変えていこう」と、変革のチャンスと捉えていらっしゃる方が多いのが印象的です。「子どもたちの姿を日々見ている私たちが、この時代を作っていく先駆者としての雄姿を感じます。 眞田 海

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



本社  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビルディング2号館10階  
tel.03-5909-7155  
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389  
URL: <http://www.caguya.co.jp>  
E-mail: [support@caguya.co.jp](mailto:support@caguya.co.jp)  
受付時間 月～金 9:00～18:00  
(土・日曜祝祭日を除く)